

1 - 1 日本とその周辺の地震活動（2004年5月～2004年10月） Seismic Activity in and around Japan (May 2004 - October 2004)

気象庁・地震予知情報課
Earthquake Prediction Information Division, JMA

今期間、日本とその周辺で M5.0 以上は 100 回、M6.0 以上は 14 回、M7.0 以上は 1 回発生した。このうち最大は、2004 年 9 月 5 日に東海道沖で発生した M7.4 の地震であった。

2004 年 5 月～10 月の M5.0 以上の震央分布を第 1 図に示す。

主な地震活動は以下の通りである。

(1) 北海道地方とその周辺の地震活動（本巻「北海道地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2003 年 9 月 26 日に発生した平成 15 年（2003 年）十勝沖地震の余震活動は、一年を経過しても時折 M5 を超える地震が発生しているが、地震回数は徐々に減少している。なお、本震後に北海道の内陸で微小な地震活動が活発化したが、一部を除いて数ヶ月程度で以前の活動レベルに戻っている。

(2) 東北地方とその周辺の地震活動（本巻「東北地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

特に目立った活動はなかった。

(3) 関東・中部地方とその周辺の地震活動（本巻「関東・中部地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

房総半島南東沖（プレート三重会合点付近）で、2004 年 5 月 30 日に M6.7 の地震が発生し、伊豆諸島などで高さ 10 cm 未満の津波を観測した。主な余震活動は約 1 ヶ月で収まった。

紀伊半島沖・東海道沖で、2004 年 9 月 5 日に M6.9（最大震度 5 弱）、M7.4（最大震度 5 弱）の地震が発生し、太平洋沿岸で高さ数 10 cm 程度の津波を観測した。一連の活動は、前震－本震－余震型で推移し、余震活動は順調に減衰している。

新潟県中越地方で、2004 年 10 月 23 日に M6.8（最大震度 7）の地震 [平成 16 年（2004 年）新潟県中越地震] が発生した。その後約 1 時間に M6 以上の余震を 3 つ伴うなど余震活動が一時活発で、西傾斜の断層を 2 枚形成した。10 月 27 日にはそれらの共役断層で M6.1 の地震が発生し、二次余震活動が活発となった。11 月中旬には M5 を超える余震は余震域の北部で発生した。主な地震の発震機構は、北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、この付近ではよくみられるものである。

(4) 近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動（本巻「近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

特に目立った活動はなかった。

(5) 九州地方とその周辺の地震活動（本巻「九州地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

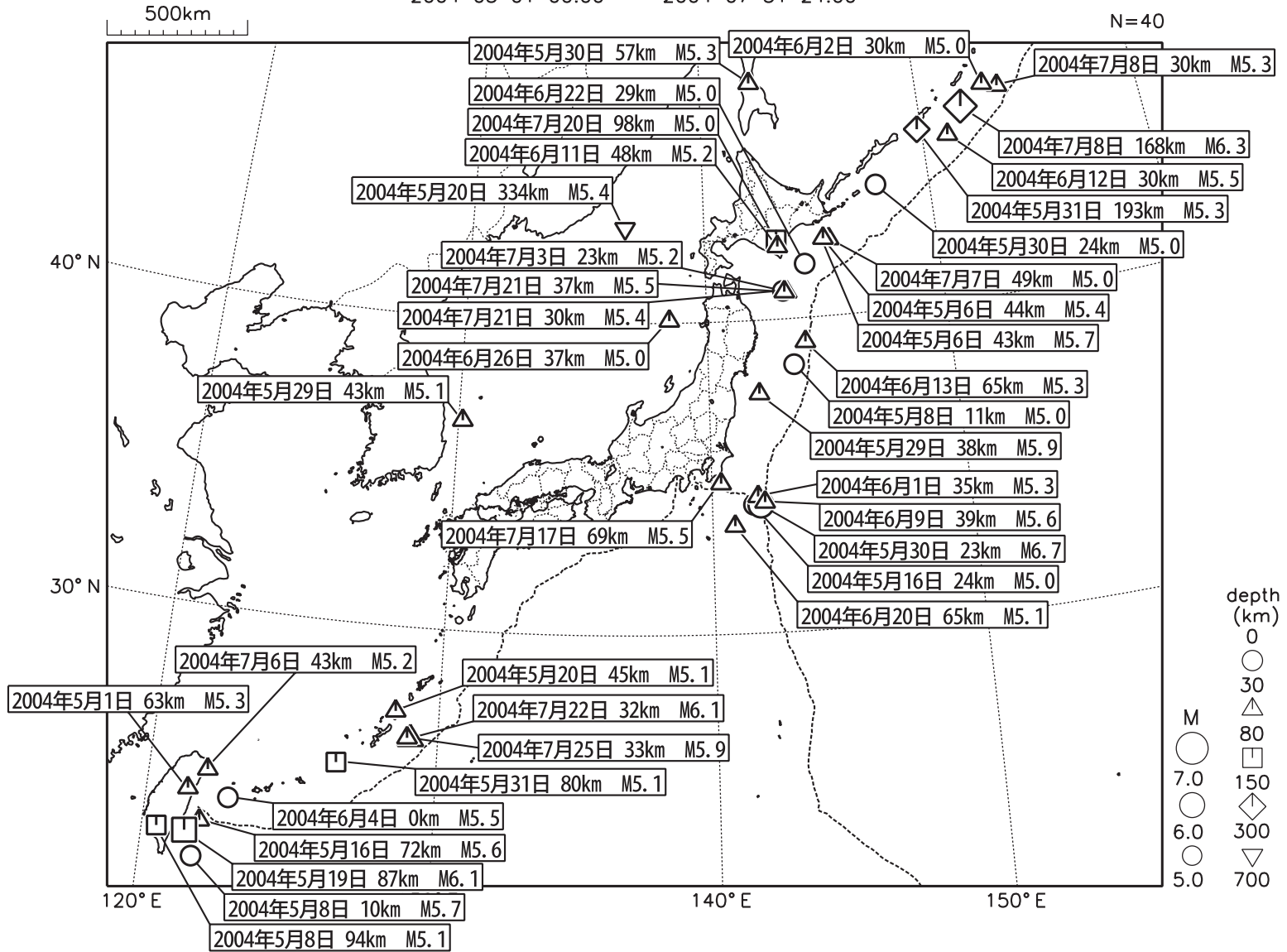
特に目立った活動はなかった。

(6) 沖縄地方とその周辺の地震活動（本巻「沖縄地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

与那国島近海で、2004 年 10 月 15 日に M6.6（最大震度 5 弱）の地震が発生した。この付近では、1947 年 9 月 27 日に M7.4 の地震が発生している。

日本とその周辺の地震活動(2004年5月~7月、 $M \geq 5.0$)

2004 05 01 00:00 -- 2004 07 31 24:00

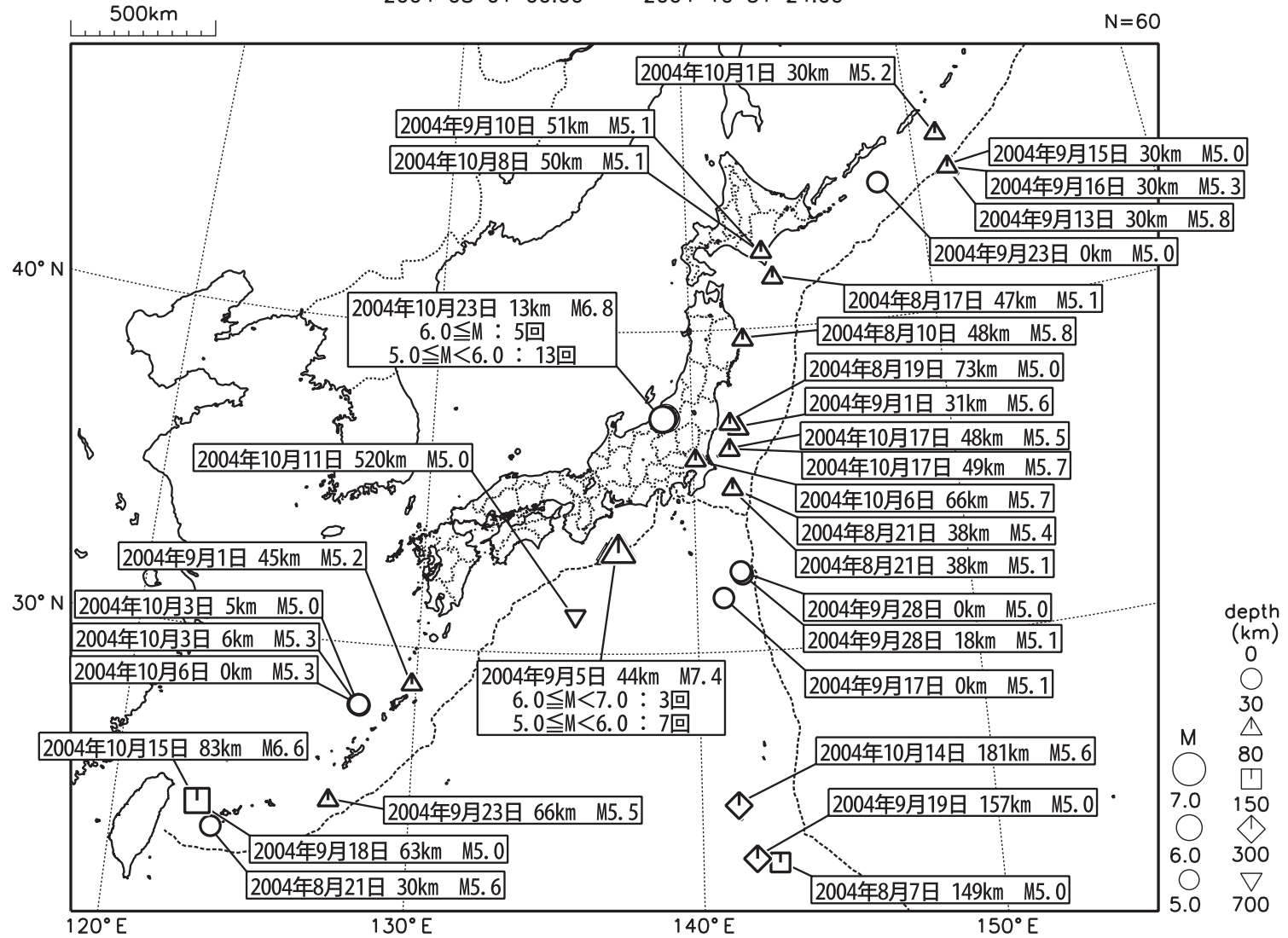


第1図(a) 日本とその周辺の地震活動 (2004年5月~7月, $M \geq 5.0$, 深さ ≤ 700 km)

Fig.1(a) Seismic Activity in and around Japan (May - July 2004, $M \geq 5.0$, depth ≤ 700 km).

日本とその周辺の地震活動(2004年8月~10月、 $M \geq 5.0$)

2004 08 01 00:00 -- 2004 10 31 24:00



第1図(b) つづき (2004年8月~10月, $M \geq 5.0$, 深さ ≤ 700 km)
 Fig.1(b) continued (August - October 2004, $M \geq 5.0$, depth ≤ 700 km).